

学校だより



平成30年度 第23号

下野市立南河内中学校
発行者 日下田 英彦
H30. 8. 31

8月の俳句 仰ぎ見る大樹に風の晩夏かな

黒澤 樹音

学校での生活が再開するに当たって……生徒の皆さんへ

今日、8月31日に新しく改修された校舎を見ることができました。これからはこの快適な校舎で生活することができます。

そして、9月は前期のまとめの大切な月です。9月6日(木)から実施される期末テストに全力を注ぎましょう。夏休みに会議室で学習する生徒も多くいました。

3年生は夏休み中にそれぞれ自分の行きたい高校の一日体験学習に参加し、進路への関心が高まったことと思います。また、運動部の活動が終了しました。各部の成績は、前号に掲載してありますが、どの部もすばらしい活躍でした。しかし、部活動の成績は結果だけではなく、生徒の皆さんの心の中に、どれだけ深い思い出となって残ったか、部活動を通して何を学んだか、何を身に付けたかが大切です。文化部の生徒は活動が続きますが、3年生の皆さん本当にご苦労様でした。1, 2年生は3年生の後を引き継ぎ、よい伝統を守ってください。今号では文化部の活動や広島平和派遣学習、中学生議会の様子などをお知らせします。

1 栃木県吹奏楽コンクール結果

○栃木県吹奏楽コンクール B部門 銅賞

7月31日(火)、宇都宮市文化会館で、栃木県吹奏楽コンクールのB部門の発表が行われました。結果は銅賞でしたが、校内での練習や7月の小山地区吹奏楽フェスティバルと比べても格段の向上があり、ベストの演奏になったと思います。



2 美術部陶芸実習

7月25日(水)、美術部は、昨年に引き続き益子町の長豊陶苑で陶芸実習を行いました。職人さんの指導で、ひも作りや板作り、ろくろによる制作、絵付けなどいろいろな制作をすることができました。完成した作品は夕顔祭に展示する予定です。また、夏休み中は9月30日(日)にグリムの森で行われる、グリムの森フェスティバルで発表する紙芝居の制作を進めていました。



3 下野市広島平和派遣学習

8月5日(日)から7日(火)の3日間、壬生町との合同で広島平和派遣学習が行われました。市内4中学校から2年生男女各1名計8名の生徒と、引率として渡邊沙織先生が参加し、平和記念式典への参加や千羽鶴の奉納、平和記念館の見学などを行いました。また、平和への思いを綴った高梨君の作文が、下野新聞に掲載されましたので紹介します。

私が、広島の地に足を踏み入れたとき、73年前この地が一瞬にして焼け野原となったことが頭に浮かびました。

広島にたたく原爆ドームの姿を見ると、レンガがぼろぼろになり、資料で見た原爆前の様子とは全く別物でした。

たったの一発で、多くの人々の命を奪う核兵器。原爆ドームを見てその悲惨さを思い浮かべると、言葉が出ませんでした。

被爆者の方の話では、原子爆弾が投下された瞬間、熱風が人々を襲ったそうです。人々はやけどやけがをしながらも、水をもとめてさまよっていたそうです。目に見えない放射線を受け、いまだに苦しんでいる人がいると聞いたとき、本当に恐ろしく、おろかなものであると感じました。

平和記念式典で「平和な未来をつくろうと努力してきた広島の人々の思いを私たちがつないでいく。」という小学生の平和への誓いを聞いたとき、広島の人々が苦しみを乗り越え、恐ろしいものを二度とつくりたくないことを私たちが受け継いでいかなければならないと思いました。

8月6日8時15分、辺りは蝉の鳴く声と鐘の音だけになりました。その1分間、亡くなった方へ黙祷を捧げました。

千羽鶴を奉納するときに、「夢や希望をもてる未来をつくり、誰もが笑顔になれるように。」という思いを込めました。広島に生きる人々の力強さを受け継ぎ、平和をつくりたいです。

「平和」、このたった2文字を実現させるために、人々がどれだけの苦勞を乗り越えてきたか。世界は今なお1万4000発を超える核兵器があります。あの悲劇を二度と起こさないよう、当たり前の日々への感謝を忘れず、当たり前な平和が世界中で叶うよう、広島で学んだことを伝えて行きたいです。



4 下野市中学生議会

8月20日(月)、下野市の第2回中学生議会が開催されました。これは、市内4中学校の中学生に中学生議員となってもらい、議員として市に質問や要望を發表する取り組みです。普段は入ることのできない議場に入り、市長や教育長、市の各部の部長さん方の見守る中、堂々と質問を行っていました。南河内中からは、市のPR作品「サクラノチカイ」の活用についてと地震対策についての質問ができました。

最後には、記念撮影や市長とのランチトークも行うことができ、テレビ局や新聞社からの取材も受けました。いい経験になったと思います。

